

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第1部門第2区分
 【発行日】平成29年2月2日(2017.2.2)

【公開番号】特開2014-138735(P2014-138735A)
 【公開日】平成26年7月31日(2014.7.31)
 【年通号数】公開・登録公報2014-041
 【出願番号】特願2013-258260(P2013-258260)
 【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 3 4
 A 6 3 F 7/02 3 0 1 C
 A 6 3 F 7/02 3 3 6
 A 6 3 F 7/02 3 0 6 C

【手続補正書】

【提出日】平成28年12月12日(2016.12.12)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

遊技領域に発射された発射球数と遊技領域から排出されたアウト球数とを計数可能な遊技機において、

特別図柄の保留記憶が無く、且つ、大当り遊技中でも特別図柄の変動中でもないことを条件に待機フラグを設定し、保留記憶数の発生又は疑似図柄の変動を条件に待機フラグをクリアする待機設定手段と、

遊技球の最後の発射からの経過時間を計測するタイマ手段と、

該経過時間が所定値に到達すると発射球数とアウト球数とが一致しているか否かを判定する出入一致監視手段と、

該出入一致監視手段による判定結果が一致していないことを条件に異常フラグを設定し、一致していることを条件に異常フラグをクリアする異常設定手段と、

該異常フラグ及び前記待機フラグが設定された状態となることを条件に遊技球の発射不能状態とする発射制御手段と、

タイマ割込み、若しくは発射球数又はアウト球数の変化に基づいて、発射球数とアウト球数とを比較する不正監視手段と、

該不正監視手段による比較結果が、発射球数とアウト球数との差が所定範囲内にないことを条件に不正フラグを設定する不正設定手段と、を備え

前記発射制御手段は、前記異常フラグが設定されているか否かに拘わらず、前記待機フラグ及び前記不正フラグが設定されると発射不能状態とする

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

請求項 1 記載の遊技機は、

遊技領域に発射された発射球数と遊技領域から排出されたアウト球数とを計数可能な遊技機において、

特別図柄の保留記憶が無く、且つ、大当り遊技中でも特別図柄の変動中でもないことを条件に待機フラグを設定し、保留記憶数の発生又は疑似図柄の変動を条件に待機フラグをクリアする待機設定手段と、

遊技球の最後の発射からの経過時間を計測するタイマ手段と、

該経過時間が所定値に到達すると発射球数とアウト球数とが一致しているか否かを判定する出入一致監視手段と、

該出入一致監視手段による判定結果が一致していないことを条件に異常フラグを設定し、一致していることを条件に異常フラグをクリアする異常設定手段と、

該異常フラグ及び前記待機フラグが設定された状態となることを条件に遊技球の発射不能状態とする発射制御手段と、

タイマ割込み、若しくは発射球数又はアウト球数の変化に基づいて、発射球数とアウト球数とを比較する不正監視手段と、

該不正監視手段による比較結果が、発射球数とアウト球数との差が所定範囲内にないことを条件に不正フラグを設定する不正設定手段と、を備え

前記発射制御手段は、前記異常フラグが設定されているか否かに拘わらず、前記待機フラグ及び前記不正フラグが設定されると発射不能状態とする

ことを特徴とする遊技機である。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0015】

出入一致監視手段は、遊技球の発射が停止してから経過した時間が所定値に達した場合の発射球数とアウト球数とが一致しているか否かを判定し、一致していなければ異常設定手段によって異常フラグを設定する。また、異常設定手段は発射球数とアウト数が一致した場合は異常フラグをクリアする。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0021

【補正方法】削除

【補正の内容】